



市民病院通信

市民病院における認知症対策

市民病院は2次救急病院として、病气やけがの治療や手術で入院が必要な患者さんを受け入れており、近年、高齢で認知症を持つ患者さんの数が増加しています。入院による生活環境の変化や、病气やけがによる体調の悪化が原因で、患者さんの認知症が進行し、生活の質が低下することもあります。

このようなケースに対応するため、27年1月に「認知症サポートチーム」を設立しました。病气やけがの治療だけでなく、認知症の方が安心して療養できる環境作りに取り組んでいます。メンバーは、精神科医師・認知症看護認定看護師・臨床心理士・社会福祉士・作業療法士・言語聴覚士・薬剤師です。週に1度チームで院内を回り、患者さんへの対応や対処に困る症状の対策、薬剤の調整などを、スタッフに助言・指導しています。28年7月からは、認知症の患者さんが楽しく入院生活を送れるように、週に1度「院内デイケア」を実施しています。院内デイケアでは、車椅子に乗ったままできる体操や、季節に応じた貼り絵などの制作活動、ゲームなどを行います。入院中、自

分の役割や楽しみが減り、退屈な生活を送っていた患者さんに笑顔が増え、起きていられる時間が長くなるなど、良い効果が見られます。

チームの発足に伴い、県主催の「病院の認知症対応力向上事業」に参加しました。27年9月には「認知症対応病院」の認定を受け、認知症対策の体制を他の病院に指導する役割も担っています。また、地域への認知症の支援として、月に1度「認知症看護専門外来」を開催し、認知症の方の介護や物忘れの相談に乗っています。チームのメンバーが講師となり、地域の方に認知症についての講演も行っています。

今後、認知症を患う方の増加が予測されるため、対策のさらなる充実が必要です。チーム主催の研修を実施し、院内の巡回活動や個人に合ったデイケア、レクリエーションを充実させるとともに、認知症の方への対応方法を地域へ周知することが、認知症サポートチームの今後の目標です。

市民病院管理課 (☎56・3171)

市民病院Q&A

Q 大規模な災害時に医療機関で行われる「トリアージ」とは、どういうものですか？

副院長 田中俊郎



A 通常時、医療には時間、資材、マンパワーなどの制限がなく、1人の傷病者を全力で治療できます。しかし、大規模な災害時には、医療スタッフや医薬品などが限られるため、使えるものを最大限に活用し、確実に助けられる傷病者をできるだけ多く治療しなければなりません。そのため、傷病者の重症度や緊急度などで治療の優先順位を決定し、治療する必要があります。重症度や緊急度などで傷病者を分類し、治療や搬送の優先順位を決めることを「トリアージ」といい、助かる見込みがない人や軽傷の人よりも、すぐに治療することで命を救える人を優先し、治療するものです。トリアージには赤・黄・緑・黒の4種類のタグがあり、救命処置の優先順位は「赤↓黄↓緑↓黒」です。赤は生命が危機的な状態で、すぐに治療が必要な状態、黄は生命は危機的な状態ではないが、早期の治療が必要な状態、緑は緊急ではない軽症、黒は死亡している、または治療しても生存の可能性がない状態を指します。

市民病院管理課 (☎56・3171)